目的

- ・認知症高齢者を抱えるグループホーム(以下 GH)では複数の疾患を合併していることが多く 多剤を併用しており処方の変更も多い。
- 介護職員が複雑な服薬管理をすることで負担も 多く、リスクが多く存在している。
- GHの正面に位置する当薬局は、平成24年4月より入居者に対して訪問薬剤管理指導を担当している。薬剤師の介入事項と内容、包括的服薬管理の必要性を報告する。

方法

平成25年11月の一カ月間、18名の入居者に対して行った薬剤管理や指導について詳細な時系列記録を記載した。この資料をもとに薬剤師の介入した管理や指導の内容について検討。また介護職員に対し、薬剤師介入についてのアンケートを実施。

★18名が入居するAグループホーム(当薬局の正面) 5つの医療機関(往診専門の診療所・透析病院・訪問 歯科・訪問眼科・訪問皮膚科)から薬が処方

アンケート対象:介入前から在籍する介護職員11名

結果

薬剤師介入事項をOP・PCP・EPに分類

	OP (Observation plan)	PCP (Pharmaceutical care plan)	EP (Education plan)
往診同行時	・バイタルサインの記録 ・顔色、活気を観察 ・検査値の確認 ・服薬状況の確認	・入居者全員分の薬を一日単位でま とめてセット ・薬の追加、オフ ・併用禁忌の確認 ・粉砕可否、安全性の確認	・介護職員への服薬管理方法の指導、アドバイス・介護職員への効果・副作用の説明・医師への薬剤情報提供・医師への処方提案
新入居者に対して	・持参した薬の確認、整理 ・嚥下機能、認知機能の 確認 ・全身状態の確認	・持参薬を一包化してセット ・持参薬の医療機関への問い合わせ	・介護職員へ内服薬の説明
嚥下困難時	・嚥下機能の観察、確認	・メーカーへ粉砕、分割可否の問い 合わせ ・剤型を変更して再セット	・介護職員への剤型の提案、指導
残薬	・残薬の数の確認、管理	・残薬を使用してセット	・医師に残薬の報告、処方提案
トラブル発生時	・状況の確認 ・全身状態の確認	・安全性の確認・薬の再セット	・介護職員へ今後の対応への指導、 アドバイス

服薬管理事例

- ☆抑肝散服用中の入居者に浮腫、血清K低下症状が見られたため甘草による副作用の可能性を医師に助言 抑肝散を翌日から減量との指示があり再セットしに行く
- ☆レナジェルを服用中の入居者が飲み込みづらくなってきているので粉砕できないかと介護職員から相談されるメーカーに問い合わせしたところ、粉砕すると水分を含んで膨張し余計に飲み込みづらくなるとの回答があり、粉砕ではなく四分の一にカットして服用することを提案し試したところ飲みこむことができた

介護職員へ服用直前にカットするよう指導

☆アローゼンの飲み残しが多い入居者の排便状況を介護 職員に聞いたところ良好との回答、その旨医師に話し アローゼンを処方からカットして、また便秘になった時に は残薬から使用することを提案

介護職員から薬剤師への意見

(アンケート自由記載より)

- ・ 薬のわからないことを気軽に聞けて有難い
- 医師には聞けないことを相談できる
- 相談することで薬が身近になり理解も深められる
- 薬剤師のアドバイスにより薬の選択が広がり入居者 利益となっている
- 薬のことをおまかせできるので安心してその分ケアに回ることができる



増えた

変わらな

気持ちの負担が減った薬への関心が増えた91%

入居者Aさん

疾患名

慢性腎不全 認知症 ANCA関連血管炎

/ /	HAC			7 大	出し	7	门罗门	育个王	記入L	 	ANCA	関理 皿官	引义	
2014年1月	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30 F
	往診日	訪問眼科	透析病院				皮膚科で切除		皮膚科で傷 口の処置		皮膚科で傷 口の処置	バイアスピリン再 開		
	定時処方		定時処方				フロモックス 処方	潤腸湯OFF				追加セット		
	23日に皮膚科で腫 瘍切除のため バイスピリンOFF						追加セット	アミテイーザ1錠	 カロナール処 方		フロモックス 処方			
								に減量して再 セット	追加セット		追加セット			
診療所定時処方														
1)ロナセン(2) 2錠 朝夕食後														
2)潤腸湯 5•0g 朝夕食前								┆潤腸湯0FF	アミテイーザ	減量				
3)アミテイーザ 2錠 朝夕食後							 							
4)ロヒプノール(1) 1錠 寝る 前														
透析病院定時処方												バイアスピリン 再開		
1)バイアスピリン 1錠 朝食後	バイアスピリンを OFF													
2)アムロジン(5) 1錠 朝食後														
3)ランソプラゾール(15) 1錠 朝食後														
4)プレドニン(5) 1錠														
プレドニゾロン(1)1錠 朝食 後														
5)ネオマレルミンTR 1錠 寝る m														
訪問皮膚科														
							フロモックス		カロナール					
訪問眼科														
		ヒアレイン 点眼 処方												

2013年11月

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	
				1	2		
				往診日	外用薬を持って行く		
				8名の往診に立ち会う	スピール膏の使い方説明		
				ムクダイン、アントブロンを追加セット	残薬の整理		
				ネリプロクト坐剤の使い方説明			
				小青竜湯を追加セット			
				4日から10日の服用分を持って行く			
4	5	6	7	8	9	10	
		頓用薬を追加して良いか問い合わせ		往診日			
	医療機関へ用法変更の問い合わせ	確認が取れたので残薬から持って行く		5名の往診に立ち会う			
		眼科の目薬を持って行く		クラリチンを追加セット			
	坐剤がうまくはいらないとの相談	使用方法、保管方法の説明		市立病院の処方を合わせてセット			
	水でぬらすかキシロカインゼリーを			歯科の処方を持って行く			
	使ってみるよう指導			11日から17日の服用分を持って行く			
11	12	13	14	15	16	17	
腰痛コルセットを持って行く	新入居者のご家族と契約	臨時往診で出た薬を追加セット		往診日	外用薬を持って行く		
ハイドロ救急パットをもっていき		眼科の目薬を持って行く		7名の往診に立ち会う			
使い方の説明		透析病院から3名分の処方箋		アルダクトンAを追加セット			
歯科の処方を持って行く		分包して合わせてセット		ムコダイン、アントブロンを追加セット			
		副作用による体調不良かもしれない		漢方薬を追加セット			
		ので医師に相談		昼の漢方薬をOFF			
		医師の指示により抑肝散OFF		抗生剤を追加セット			
				18日から24日の服用分を持って行く			
18	19	20	21	22	23	24	
	便秘が悪化した入居者に残薬から	歯科の処方を持って行く		往診日			
	カマを追加セット			7名の往診に立ち会う			
				抗生剤を追加セット			
				アルダクトンAをOFF			
				用法変更のため再分包して追加セット	,		
				歯科の処方を持って行く			
				25日から12月1日の服用分を持って行			
25	26	27	28	29	30		
 歯科の処方を持って行く		歯科の処方を持って行く			嚥下困難になってきている薬の粉砕を		
皮膚科の処方を持って行く		透析病院から4名の処方箋		8名の往診に立ち会う	メーカーに問い合わせ		
新入居の方の薬の整理		分包して合わせてセット		ワーファリン追加セット	粉砕による安全性が確立されていないの		
西公句 <i>で</i> はって行/				セロクエルを半錠にして再セット	で ハキリートフロロナニナナ		
再分包して持って行く		新入居者のご家族と契約			分割による服用を試す		
				歯科の処方を持って行く	直前の分割なら可能なので介護職員へ		
				ワーファリン服用時の食べ物の説明	分割による服用方法の説明、指導		
1				12月2日から8日の服用分を持って行く	•		

2013年 11月 医師の往診に同行 4回 GH訪問日数 17回 GH訪問回数 40回

OP 15 / PCP 48 / EP 16 |

薬剤師が感じるメリット

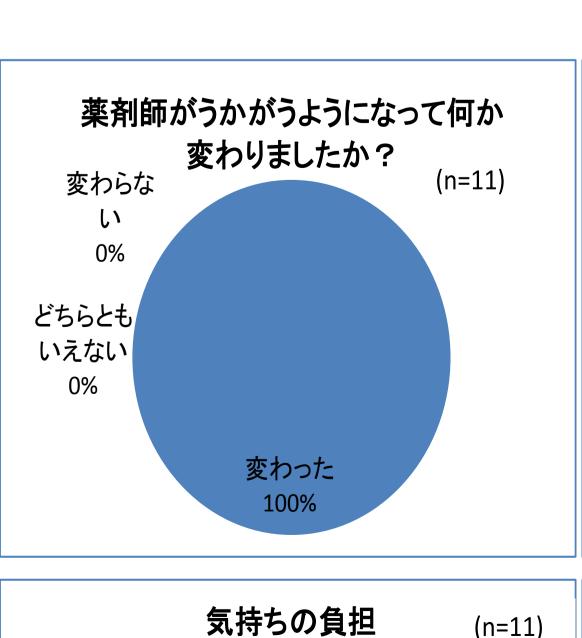
- ・医師の往診に同行することにより処方意図を直接把握できるため的確な服薬指導ができる
- ・薬局がGHの門前にあるので移動に時間がかからない ため、頻回に訪問することができる
- ・頻回に訪問することにより、介護職員との<mark>信頼関係</mark>が 築ける
- ・入居者を中心に家族、医師、看護師、薬剤師、ケアマネ、介護職員が一同に会し、ケア方針について直接話す ことができる

薬剤師が同行することで医師が感じるメリット

(往診の医師に聞いてみました)

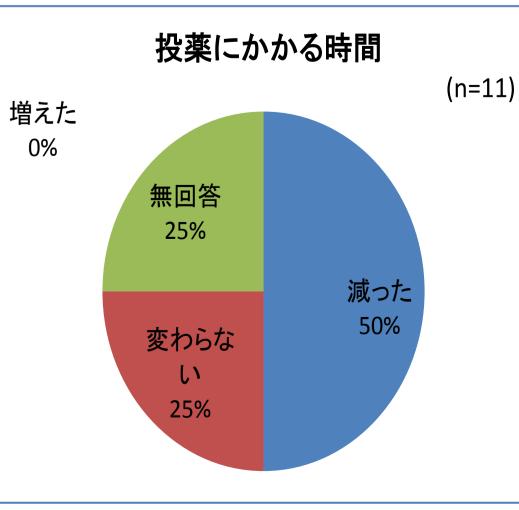
- 薬剤師が同席することで処方の選択肢が拡がったり その場で剤型について相談できる
- ・残薬の状況、頓用の使用状況などが的確にわかる
- ・他の医療機関を探す時、近隣の医療機関の情報 などを提供してもらえる
- 入居者のケア方針についてその場でディスカッションすることができることはまさに地域包括ケアの実践ということができる

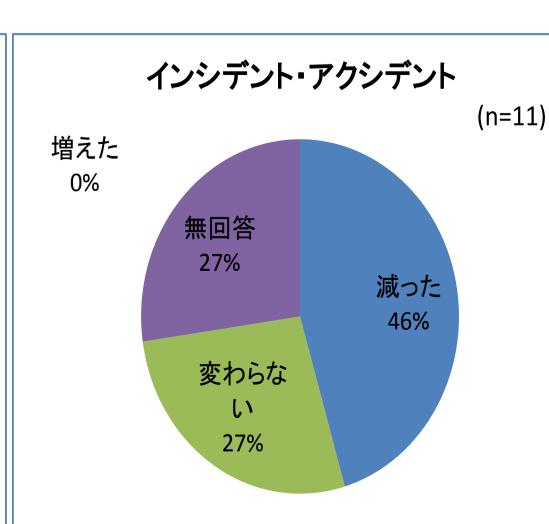
AGHの介護職員への薬剤師介入についてのアンケート結果

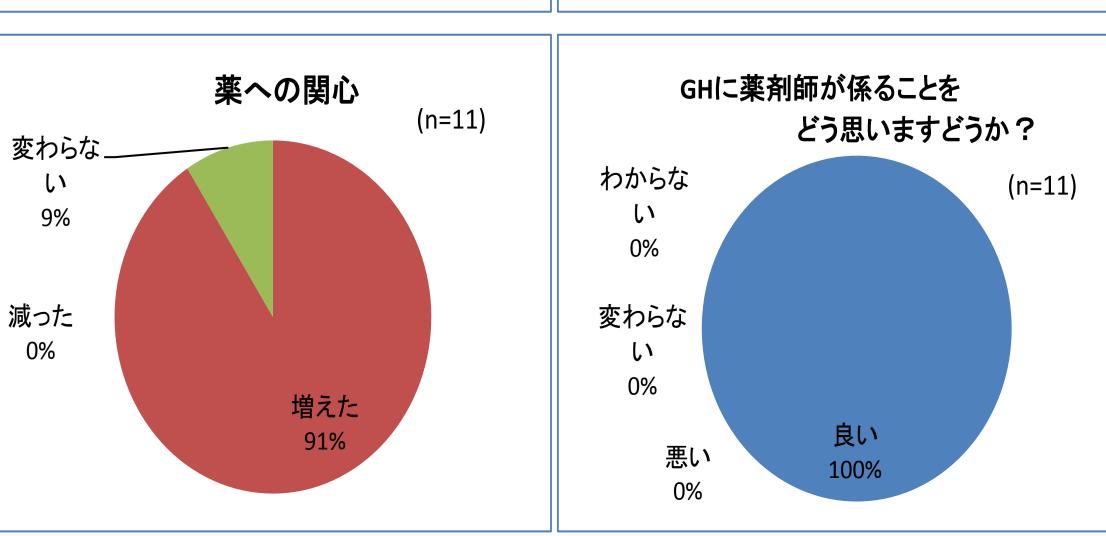


減った

100%







- GHに薬剤師が介入することで複数の医療機関から出される処方を個別かつ包括的に管理できる
- 薬剤師が管理することにより安全性が高まる
- 施設の門前という利便性をいかし頻回に訪問することができ、きめ細かいスピーディな対応が可能となる
- ・介護職員が業務に専念でき薬への理解も高まる
- ・医療、介護とも質向上が望める

結語

- ・訪問回数と調剤報酬は経営的な観点から見れ ば効率が良いとは言えない現状がある
- しかし、GHにおける複雑な服薬管理を包括的に 管理することは薬剤師の責務であると考える
- ・ 今後、介護の現場において薬剤師による包括 的服薬管理の必要性を周知していくことが望ま しい